

STRIKEWITCHES 02
REVOLUTIONS

ゴリー少将

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

「君は何を思つて飛ぶ？」

「お父様 お母様に恥じないウィッチたらんと思つて。」

「何を願つて飛ぶ？」

「人々を守りまた第二世代ニュータイプとして人々の進化を促したいと願つて飛びます。」

「本心では何を願う？」

「・・・戦いたい。」

「？」

「あなたと戦いたい。」

「!?」

「それが僕の望みです!!」

目次

第1章 STRIKEWITCHES

shattered skies

プロローグ | 1

始まりの笛音 | 7

第1章 STRIKEWITCHES shatte

red skies

プロローグ

設定

ISAF

独立国家連合軍。国連平和維持軍に類似する軍事組織。地球連邦軍創設の準備段階として創設された多国籍軍。有事の際には扶桑皇国海軍第七・八艦隊が矢面に立つ。

扶桑皇国海軍 第八艦隊 ヴェトナム駐留艦隊

菅野直枝 中佐率いる部隊。軽空母1隻とイージス艦2隻、補給艦1隻で構成される。ガリアから独立したヴェトナム共和国が2年前に扶桑皇国と安保条約を結んだの

で本国から派遣された部隊。

軽空母 瑞鳳

アメリカ級強襲揚陸艦をベースに原子力機関を搭載、リニアカタパルトも搭載した新世代軽空母。ヴェトナム駐留艦隊旗艦。

人物

メビウス8

最近扶桑皇国海軍第八艦隊に配属されたひよっこMSパイロット。下記のおメガ大隊所属の少尉。伝説のMSパイロット二人を親に持つ。本作前半は彼女が主人公であり、クルーゼではなく基本彼女の視点で話が続くので注意。

メビウス7

MSパイロット。おメガ大隊所属の中尉。メビウス8の異母姉。両親やメビウス8と違いがさつだが実力は本物。

オメガ11

菅野直枝 中佐。 第八艦隊特務突撃大隊 通称『オメガ大隊』隊長 兼 第八艦隊
ヴェトナム駐留艦隊司令長官。 メビウス7・8の上官。

コールサイン

通常なら所属部隊と序列で決まるコールサインだが、一部の者には所属・序列にかかわらず固定のコールサインを与えられた者もいる。文武共に圧倒的な実力を持つ 又は英雄的武功を立てた者にのみ扶桑皇国全軍総帥たるクルーゼから直接コールサインを考案、授与される栄誉を与えられる。

お父様に誘われ、初めて空を飛んだのは、確か5歳の誕生日だったはず。その時のこととは今でもはつきり覚えている。一面に広がる 蒼と白だけの世界。

「凄い……こんな世界があるなんて。」

「だが重力の井戸に引かれたこの空は君の居場所としては狭すぎる。君の居場所に相応しいのは、更にもっと上……宇宙へダークブルーの空だ。よく覚えておきなさい。」

「わかりましたお父様。」

「そして僕は君の父、そして友として言うておこう。君は君の思いを背負って飛ぶのだ。他の余計なものは何であれ背負う必要は無い。余計なものを持たされても、飛ぶのに重いなだけなのだから。」

「はい。」

ピピピピ　　ピピピピ　　ガチャ　目覚まし時計を叩く

もう5時50分？早く起きないと菅野隊長に怒られる。

「うゝん。」

「はよ起きろ。案外菅野隊長はお前に優しいが私が怒るぞ。」

「お姉様。おはようございます。」

同室のお姉様が半ギレした声で僕の身体を揺すり起こしにかかる。お父様もお母様もそんなことないのに何故か僕だけが低血圧だから、こうして貰わないと僕は起きることができない。兵学校も大学校も主席で出て任官した僕だが、この点だけが軍人として唯一かつ致命的な短所だったりする。

「おはようお前ら。」

「おはようございます菅野隊長。」 敬礼

「おう」 敬礼

「メビウス7、8。お前らは今日の哨戒でオレとエレメントを組め。力量を見たい。」

「了解しました。」

「へいへい。」

次回 STRIKEWITCHES shattered skies 「始まりの

笛音」

少女は　そして神話となる

始まりの笛音

「我々に楯突くことがどういう事か、このワシが教えちやる!!」

ラウ・ル・クルーゼ元帥 事実上退任

ラウ・ル・クルーゼ皇国元帥 兼 統合幕僚副長 兼 第七艦隊司令長官（19）が今年度末を以て実質的に退任する見通しとなった。二年前に終結した第二次ネウロイ大戦（通称：大陸戦争）を軍官僚としてもエースとしても勝利に導いた英雄とされる元帥だが、陛下との協議の結果、退任する方針になった。これに伴い第七艦隊は海軍から独立し新たな軍隊「扶桑皇国宇宙軍」が創設される。後任の統合幕僚副長には杉山茂子 陸上幕僚長が就任する見通し。

退任にあたりクルーゼ元帥は本紙限定で談話を開いてくださった。全文を掲載する。

「よろしくお願ひします閣下。」

「（ちらり）そよろしく。」

「今回退任されるにあたり理由をうかがってもよろしいですか?」

「はい。一言で申し上げるなら、これからの新時代の扶桑皇国軍には、たった一人のスーパーヒーローは必要ないと判断したからです。はつきり申し上げて、もう私の力は扶桑軍には必要ないです。そして何より、現在の扶桑軍のトップに要求されるのは自らビジョンを打ち出すトップダウン型のリーダーです。しかし私はそうではなかった。温和に組織をマネジメントする調整型のリーダーでした。調整型リーダーは未来においてはいざ知らず今に合ったリーダーではありません。だからこそ私はトップ・エースとして敵を叩き落とし、また扶桑軍将兵の皆さんを飢えさせないように采配することが一杯だった。だからこそ軍全体の指揮は、当時の統合幕僚長であった寺内さんのようなトップダウン型リーダーに任せていたのです。私が統合幕僚長職に就く必要は全くなかった。私は形式的にはともかく、実質的にはNo. 1になる器ではなかった。」

「最後に閣下、関係者の皆さんに一言お願いします。」

「皆が一緒に働いてくれたから、戦ってくれたから、私はここにいます。 ありがとう。」

読売新聞 1949年3月1日 朝刊 一面より

「よし揃ってるな。んじゃブリーフィングを始める。オレ達の世代が大陸戦争に終止符を打って早一年。オレ達に続いて空に上がったお前らのお陰で、世界は平和を保ってきた……今日まで。」

「……」

「一年振りに平和が破られた可能性がある。クイニヨンにある我々I S A Fヴェトナム支部所属のリーダーサイトが20分程前所属不明機接近の報を我々I S A Fカムラン湾駐留艦隊に送ってきたが、その直後にリーダーサイトからの通信が途絶した。所属不明機から攻撃を受けたものと判断する。AWACSによると所属不明機は後30分で我々の上空に到着することだ。オメガ大隊は全力出撃、先遣隊を第一小隊に任せ

る。所属不明機に警告し、カムラン地上基地への強制着陸を促せ。まあもつとも、所属不明機がネウロイじやなかったらの話だが。」

皆が乾いた笑いを部屋に響かせる。

「あ そうだ。メビウス7、8お前らに言っとくぞ。」

「?」

言いたいこと?なんだろう。

「統幕から連絡だ。『今回の事態がISAFヴェトナム支部の限界を超えるものと見なされた場合、直ちに唯一即応可能な“メビウス中隊”を召集、事態にあたる。心されたし。』だ。」

「うげっ。」

お姉様が露骨に嫌っぽく反応した。無理もない。まだ自分の力が足りない現時点でお父様お母様と飛ぶなんて僕だって恥ずかしいもの。

「実力なら問題ねえよお前らならよ。この前の模擬戦で大陸戦争で30人もいねえ扶桑人撃墜数三桁超えベテランのオレを片手間程度で叩きのめしたんだ。他のメビウス中隊の連中もお前らのことは認めてると思うぜ?腕に自信を持て。」

菅野隊長はそう言うのと僕とお姉様の肩を軽く叩く。

「行くぞ。オメガ大隊！！」

「了解！！」

「こちら瑞鳳管制塔。メビウス7、8 聞こえるか？」

「おう。感度良好。問題ない。」

「こちらメビウス8。こちらにも問題ありません。」

「お前からより先にオメガ11（菅野）が発進する。オメガ11発進の後カタパルト上にて待機せよ。」

「風向き北西追い風18ノット。発艦に支障なし。オメガ11、発艦を許可する。」

「オメガ1（菅野）、ブルデュエル 出るぞ！」 ヒューン ガシヤン

「続いてメビウス7、発艦を許可する。」

「メビウス7 ジェガン 出る！」 ヒューン ガシヤン

「メビウス8、発艦を許可する。」

「はい。メビウス8 出ます！」 ヒューン ガシヤン

これが僕の初陣。緊張はしていないけど、北の方から邪悪なプレッシャーを感じる。

これがネウロイ・・・

「相棒、まさか緊張してるなんてことは無いよな？」

「大丈夫ですお姉様。この程度で緊張していたら、初陣で平気で三桁撃破していたお父様に申し訳が立ちません。」

「それでこそ『メビウス』だ。行くぞ！」

「はい！」

次回 STRIKEWITCHES
魔 王は そして空へ還る
shattered
skies
「白い悪